

事後評価報告書
(日本-EU 研究交流)

1. 研究課題名: 全固体電池におけるメソ領域での Li イオン挙動解析

2. 研究代表者名:

日本側: トヨタ自動車株式会社 電池研究部 グループ長 斎藤 俊哉

相手側: Unibersidad Politecnica de Madrid, Instituto Fusion Nuclear

Prof.,Director Jose Manuel Perlado

3. 総合評価: C

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側において複数の研究機関を組織して円滑な運営を行い、全固体電池の作製とイオンビームによる機能評価を行ったこと、各国の役割分担を適切に行い、それぞれの機関の特徴を活用して技術実証を行ったことは評価できるが、開発された手法の実用性が証明されておらず、研究目的である手法の確立に達していないなど、成果がやや不足であると思われる。成果の公表として、本課題の共同研究に基づいた原著論文・学会発表ともに全くないことは好ましくない。また、研究活動の相互参加や相乗効果が見えない点も残念である。

(2)交流活動の評価について

定期的にプロジェクトワークショップを開催して交流ネットワークができたこと、相互訪問により交流を深めたことなどは評価できるが、どのような成果に結びついたかについては不明確であり、本事業の報告書にもう少し判りやすく説明があれば良かったと思われる。双方の研究室への若手研究者の長期派遣など現場の研究者の長期にわたる交流、学術会議への参加発表などが盛り込まれておらず、国際交流課題においては、人材育成が重要であるが、この点での貢献に疑問が残る。

(3)その他

実績報告書に学術的成果に関する記載がなく、学術的な成果を評価することが出来なかった。